

折物

三四番間供御膳略 中次小脇物、御臺

〔貞丈雜記七酒盃〕一折の物と云ふは、折に酒の肴をもりて出す也。折の前に記す。

〔貞丈雜記七膳部〕一折と云ふは木を折わげて箱にするゆへ折と云足を折に直に打付る事はないし、折に合せて臺をして、臺に足を付る也。ふたも釘にて打付る事なし、臺よりふたの上へ水引をかけて結ぶ也。蟠川記に云く御折は三獻め五獻めより參候而可然候乍去獻數少き時は二獻めよりも參候、きそくの物には箸はすはらず候折の内にもりたる物、きそくさしたる物ならば、箸をすへざる也、きそくの物はきそくを以て人に又様體によりすはり候事も候、しばりをばかりにてとき候て持出候也云々、しばりとは水引にて折を結びたるを云ふ也、今時折と云は、折に直に足を打付けふたをも釘にてしめ削り花をふたの上にさす也是古は折といはず櫃物と云ふ也、折に金らん段子くつわ記、今時折一合といふを折二ツの事と心得たる人あり、あやまり也、折にかぎらず唐櫃なども一合と云ふは一つの事也、すべて箱類をば一合二合と云ふ也。

土器物

〔庖丁聞書〕一とり居といふは、土器に檜葉南天の葉など改敷にして、肴を盛土居に据るなり、精進のときは梅漬のりの類杯也、是をかはらけのものともいふ。

〔貞丈雜記七酒盃〕一かはらけ物と云ふは、大なるかはらけに酒の肴をもりて出すを云ふ、今時鉢に肴をもりて出すに同じ心也、土器にもりたる肴を二つも三つも一ツ

〔宗五大草紙上〕大酒の時の事同殿中一獻

一貴人へ折土器の物に肴取てまいらする事、敬人には人によりて酌有べし、又若き人などは何とやらん似合候はず候、ちと年もふけ故實がましき人可然候、人のくひよさそ成物をまいらすべし、何れも大なる物よろしからず、又貴人へまいらせやう、肴をはさみたる右の手に、左の手をそとそへて、我摠の身をちと玄づむるやうの心にてまいらすべし、又折土器の物などを